

平成 29 年度  
視察等の届出・報告書  
(届出番号 10~12)

平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (10~12)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
10	10月19日 ~20日	小田康文	竹原茂三・谷本彰良	佐賀県佐賀市・多久市 (全国過疎問題シ ンポジウム 2017 i n 佐賀)

議長

副議長

局長

GL

係

国 覧



様式第1号

平成29年 9月21日

真庭市議会

議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員

小田康文



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 10月19日 佐賀市文化会館大ホール  
10月20日 多久市中央公民館

佐賀県佐賀市日の出1-21-10

佐賀県多久市北多久町大字小侍7-1

3 内 容 全国過疎問題シンポジウム2017 in 佐賀 に参加  
上記分科会に参加、現地視察を実施

テーマ：過疎地域における課題である人口減少や少子高齢化は日本全体が直面する問題である。過疎地域の様々な取り組みについて全国の優れた事例に触れ、参加者相互の交流を図るなど人と人の繋がりを通じて将来に向けた取り組みを考える契機とする。

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加議員名簿

森真会

小田康文、竹原茂三、谷本彰良



出発/到着

出発/到着	日付	時刻	交通機関	フライト番号ほか	出発地 到着地	備考
出発	2017年10月19日	7:00	クルマ		真庭市	落合総合センター駐車場
到着		8:20			岡山駅	
出発		9:10	JR	のぞみ1号	岡山駅	
到着		10:52		博多行き	博多駅	
出発		11:01	JR	さくら407号	博多駅	
到着		11:14		鹿児島中央行き	新鳥栖駅	
出発		11:21	JR	特急かぐめ17号	新鳥栖駅	
到着		11:33		長崎行き	佐賀駅	
出発		12:30		全国過疎問題シンポジウム	佐賀市	佐賀市文化会館大ホール
		17:00		2017 in 佐賀に参加		
出発		18:00		交流会に参加	佐賀市	ホテルマリアレ創世 佐賀
到着		19:30				
到着		19:45		アパホテル佐賀駅前中央	佐賀市	チエックイン

出発/到着 日付 時刻 交通機関 フライト番号ほか 出発地 到着地 備考

森真会

出発/到着

出発/到着	日付	時刻	交通機関	フライト番号ほか	出発地	到着地	備考
出発	2017年10月20日	9:00	バス	主催者手配のバス	佐賀駅	バス乗り場	
到着		9:30			多久市中央公民館		
出発		10:00		第2分科会に参加	多久市中央公民館		過疎地域自立活性化優良事例発表
到着		12:00					
出発		12:00		昼食	多久市中央公民館		
到着		12:45					
出発		12:45	バス	現地視察	多久市中央公民館		多久市児童センター
到着		16:30			佐賀駅		多久聖廟ほか
出発		16:30	バス	解散	佐賀駅		
到着							
出発		17:36	JR	特急ひまわり34号	佐賀駅		
到着		17:48		博多行き	新鳥栖駅		
出発		18:01	JR	さくら566号	新鳥栖駅		
到着		20:02		新大阪行き	岡山駅		
出発		20:15	クルマ		岡山駅		
到着		21:15			真庭市		落合総合センター駐車場

議長 副議長 局長 GL 係 副 長



様式第2号

# 報 告 書

平成30年1月23日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 竹原 茂三  
小田 康文  
谷本 彰良



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成29年10月19日 (午前・午後) 6時00分 至 平成29年10月20日 (午前・午後) 21時30分
2	場 所	① 10月19日(木) 佐賀県佐賀市日の出1丁目21-10 佐賀市文化会館 大ホール ② 10月20日(金) 佐賀県多久市多久町大字小侍7-1 多久市中央公民館
3	用 件	① 全国過疎問題シンポジウム2017 in さが 全体会 H29年度優良事例、基調講演「『縮充』する地域を目指して」 ② 全国過疎問題シンポジウム2017 in さが 第2分科会 廃校を活用した多久市児童センター「あじさい」見学
4	概 要	「全国過疎問題シンポジウム2017 in さが」視察報告 谷本 彰良
	1. 視察内容	10月19日(木)全体会議 佐賀市(佐賀市文化会館 大ホール) 「全国過疎問題シンポジウム」は毎年各地で開かれ、29回目。歓迎挨拶で山口祥義



## 報告書（継紙）

佐賀県知事は、写真映えする県内の風景や佐賀市内のクリークを生かした取り組みなどを紹介。「『何もなかもんね』ではなく元々ある素材をいかに生かすか。建設的な話し合いをしたい」と述べた。

sutudio-L 代表の山崎 亮氏の「『縮充』する地域を目指して」と題した基調講演に続き、飯盛 義徳 慶應義塾大学総合政策学部教授をコーディネーターに、また、横尾 俊彦 多久市長らをパネリストに迎えて、『人が輝く地域づくり～自発と誇りが地域を変える～』をテーマに、パネルディスカッションが行われた。

### 10月20日(金)第2分科会 多久市(多久市中央公民館)

過疎地域自立活性化優良事例発表会では、関司 直也 法政大学現代福祉学部教授をコーディネーターに、越後妻有里山協働機構、郡上市、おいでん・さんそん、四国西予ジオパーク推進協議会の優良事例発表会の後、現地視察とそて廃校を利用した多久市児童センター「あじさい」を視察した。

2日間のシンポジウムを通して、過疎対策のキーワードとしては、「交流」が大切「観光から関係」へ、「楽しくないと続かない」、「移住者だけではなく事業者を呼び込む」といったヒントを得た。

多久市では、市内の7つの小学校と3つの中学校を統廃合し3つの小中一貫の義務教育校をスタートした。

廃校となった学校は、交流センター、障害者支援センター、多目的運動広場と児童センターとして活用していた。

現地視察を行った、多久市児童センター「あじさい」は、南校舎改修と北校舎とプール解体、児童遊園地と駐車場整備と設計監修の合計で4億9千4百万円。

財源内訳は、国交付金1億9千8百万円、市一般財源3千1百万円、過疎債2億6千5百万円であった。児童館、子育て支援センター、ファミサポ事業、利用者支者支援事業、子どもの療育訓練事業、発達障害支援センター（謙事業）の6つの機能が集約された「子ども・子育ての拠点」として有効に活用されており、廃校利用の成功例として、大変に参考となった。

10月20日

第2分科会（多久市）に参加。 過疎地域自立活性化優良事例発表会に出席した。

コーディネーターは法政大学現代福祉学部教授 関司直也氏

優良事例発表団体数は4団体

1) 特定非営利法人 越後妻有里山協同機構（新潟県十日町市） 総理大臣賞受賞団体

都市と地域の協働で行う、アートによる地域活性化「大地の芸術祭」の里

里山を舞台とした国際展「大地の芸術祭」をきっかけに、過疎化の結果生まれた空家・廃校を活用・再生した美術館、レストラン、宿泊施設の運営や、棚田保全活動、グッズ開発などに集落や地元企業などとともに取り組むことで、地域の自立を目指した活動を行っている。アートプログラムや棚田保全活動を通して、都市と地域が協働することで、総合的に地域の魅力を高めている。

2) 郡上市（岐阜県郡上市） 総務大臣賞受賞団体

住民主体による手作り自治と産業の創出

～ハンドメイドの里「めいほう」をめざして～

明宝地域では将来のめざす姿を「ハンドメイドの里（住民自治も特産品もすべて手作り）」とし、地域住民（民間）と行政が目的を共有しながら、分野を超えた組織間連携による地域活性化の取り組みを進めている。24の地域づくり団体が活発な活動を展開し、また、団体間の連携が新たな産業の創出に繋がる好循環を生み出している。



報告書（継紙）

3) 一般社団法人おいでん・さんそん（愛知県豊田市）連盟会長賞受賞団体

都市と山村が支え合う「暮らし満足都市」豊田市

～中間支援組織“おいでん・さんそんセンター”の取り組み

中間支援組織「おいでん・さんそんセンター」を設立し、そこをプラットフォームとして住民、企業、団体、NPO、研究者などが集い、専門性を活かしながら市民主導の取り組みを迅速、柔軟に展開している。都市と山村をつなぐ支援として、企業と山村地域のマッチング支援、研修、体験、CSR事業のコーディネート、山村でのソーシャルビジネスの助言などを実施している。また、移住定住を総合的に支援するいなか暮らし総合窓口も開設している。

4) 四国西予ジオパーク推進協議会（愛媛県西予市）連盟会長賞受賞団体

リアル風景と音楽の融合

「四国西予ジオパーク」の雰囲気盛り上げるBGMが加われば、より一層素晴らしい風景になるはずとの思いから、四国西予ジオミュージックプロジェクトを開始した。地域の魅力を表現した楽曲や映像作品を募集したコンテストの開催、市内最大の収容施設である道の駅どんぶり館では、観光客向けにジオミュージックを収録したオーディオプレイヤーの貸し出しを行い、交流人口の拡大と地域活性化に取り組んでいる。

上記4団体の内、真庭市にとって参考となるのは岐阜県郡上市である。

事例発表には市役所職員が来場していたが、特徴的なのは住民の思いを形に変える様々な、民が主役の団体が多数存在することである。

郡上市明室地区は人口がわずか1,728人（2017年10現在）しか居ないが、22の地域づくり団体、3つのNPO法人、2つの一般社団法人、そして3つの第三セクターが存在し、それぞれが連携しながら活動を展開していることが特異である。どうしてそのようにたくさんの団体ができあがったのかという経緯の説明は無かったが、2012年に設立されたNPO

報告書（継紙）

法人「ななしんぼ（みんなのやりたいを実現中間支援組織）」の紹介の際に明宝スピリッツは、「やってもらう」のではなく「自分たちの手で！やる」というものである事が示され、これが地域づくりの源泉になっていると感じられた。明宝地区は市街地から遠い中山間地で冬期は非常に多くの積雪が有ることから、多くの事柄を行政や他者に頼ることなく自分たちのことは自分たちでやるという考え方が行き届いているものと推察される。ある意味これから真庭市が向かうべき姿、あるべき姿を具現化しているとも言え、改めて調査研究を実施してその成果を少しでも真庭市にも取り入れるべきであると思われる。

また、他の紹介事例でも明らかにされたが、積極的に移住者を受け入れたり、地域活動が活発な地域はほぼ全ての事例で、空き家の実態調査を実施した上で不動産の流動化（賃貸や譲渡）を図るために中間支援組織などが活発に活動している。空き家は一杯あるけど所有者が不明であるとか、借りたり買い受けできないという例が山積している真庭市でも早急に取り組むべき課題であると思われた。是非詳細な調査を実施し市と協議を行っていききたい。

<p>全国過疎問題シンポジウム2017 in さが</p>	<p>竹原 茂三</p>
<p>平成29年10月19日～20日</p>	
<p>10月19日</p>	
<p>過疎地域自立活性化優良事例表彰式ならびに事例発表があった。</p>	
<p>この中において岐阜県郡上八幡市の明宝地域での取り組みは、真庭市においても実践すべき事例であった。明宝地域では、将来のめざす姿を「ハンドメイドの里（住民自治も特産品もすべて手作り）」とし、地域住民（民間）と行政が目的を共有しながら、分野を超えた組織間連携による地域活性化の取り組みを進めている。人口1,670人（平成27年度国勢調査）の明宝地域に24の地域づくり団体が活発な活動を展開し、団体間の連携が新たな産業の創設につながる好循環を生み出している。この背景には、平成16年3月1日に、旧郡上郡7町村が合併し、合併後、長引く不況や合併のインパクトが重なり合って、地域に疲弊感が漂うようになった。このような状況の中、明宝地域に「自らの力で地域を元気にしよう」と多くの地域団体やNPO法人が生まれたとのことである。</p>	
<p>わが真庭市においても地域自主組織は各地域で設立できているが、自主組織間交流はなされていないのではないだろうか。真庭市は、明宝地域と比較すれば東西南北地域は広いし人口も多い。しかしながら各地域においては、明宝地域と何ら変わりはない。中和、二川、富原各地域が頑張っているが行政的には、評価できるだろうが地域的に同じものが出来てきていないのが現状ではないだろうか。</p>	
<p>10月20日</p>	
<p>多久市の学校跡地・跡施設の利活用について現地視察</p>	
<p>旧北部小学校を多久市児童センターとして「子供・子育ての拠点」として利活用されている。行政主導で実施されており改修費4億9千4百万うち市一般財源拠出金3千1百万、他は国庫交付金、過疎債でまかなわれている。他にも空校舎が4校あるが、1校を除いて全て市主導で利活用がなされている。ちなみに多久市の一般財源は125億5,000万円である。</p>	
<p>多久市児童センター大変施設も充実しており素晴らしいし活動も各種団体サーク</p>	

報告書 (継紙)

ル等が活発に利用されおり地理的にもほぼ中心に位置し便利である。ただ真庭市と比較し大きく差があるのは面積の違いである。多久市は面積96,96 km<sup>2</sup>である。施設は参考にはなったが真庭市にどう生かすかは難しい。

廃校を活用した多久市児童センター「あじさい」の内部の様子



## 平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (10~12)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
11	10月13日	古南源二	中尾哲雄・原秀樹・ 福井荘助	滋賀県米原市（全国水源の里シンポジウ ム）・長浜市（保育士確保に向けた取り 組み）



副議長



局長



GL



回覧



様式第1号

平成29年 9月21日

真庭市議会

議長 長尾 修 殿



真庭市議会議員 古南源二



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区分  調査研究  研修会  要請・陳情活動

2 訪問先

滋賀県米原市	全国水源の里シンポジウム
滋賀県長浜市	長浜市幼児課

3 内容

全国水源の里シンポジウムでは、米原市の取り組みを調査研究する。  
長浜市では、保育士確保に向けた取り組みについて研究する。

4 行程・参加者名簿は別紙のとおり 10/13

5 事務局から訪問先への依頼  必要  不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

### 全国水源の里シンポジウム参加行程表

平成29年10月12日(木)～13日(金)

参加者 原 秀樹 古南源二 中尾哲雄 福井荘助

真庭市出発 自動車移動 291km 米原市着 会場 シンポジウム 懇親会 宿泊  
8:00 4時間 12:00 13:00

2日目 研修移動 伊吹山西山麓コース 13:00解散 9km15分 14:00～15:30 19:30  
長浜市14:00～15:30 真庭市帰着

①全国水源の里シンポジウムでは、各地域の課題や取り組みなどについて、参加者との懇談で情報を共有し、課題解決に向けた研究をする。

②保育士確保に向けた、取組について研究する。(長浜市幼児課)



様式第2号

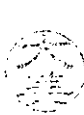
議長



副議長



局長



GL



係



回覧



# 報告書

平成29年10月17日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南源二 

下記のとおり政務活動費を使用して調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自	平成29年 10月 12日 (午前・午後)	7時 30分
		至	平成29年 10月 13日 (午前・午後)	9時 30分
2	場 所	①滋賀県米原市 県立文化産業交流会館、「グリーンパーク山東」「観音寺」		
		②滋賀県長浜市 長浜市役所6階会議室		
3	用 件	①第11回全国水源の里シンポジウム大会参加		
		②長浜市「保育士確保に向けた取り組み」		
		参加議員：原秀樹、古南源二、中尾哲雄、福井荘助 以上4人		
4	概要	以下の通り		

第11回全国水源の里シンポジウムでは、アウトドア用品モンベルグループ代表辰野勇氏の基調講演「アウトドア事業が、地域を応援する」がありました。各地での活動紹介があり、子供たちの成長過程で川遊びは重要、安全に遊ぶためには安全なライフジャケットの装着が大事であると、開発した商品の紹介があり、北海道の田舎町にモンベルの店舗を展開すると、札幌からも購入客が来てくれるとか、モンベルの紹介が主だったように感じた。

パネルディスカッションでは、コーディネーターの金井毅氏は株式会社電通ビジネスクリエーションセンター専任次長。米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議メンバー。パネラーには、①早川哲夫氏は元地域おこ



し協力隊員。自然や動物の切り絵を製作し、里山の魅力を発信している切り絵作家。②藤田知丈氏は姉川上流の集落に移住し、自然栽培の米づくりや無添加、無農薬おむすびの販売に取り組むほか自伐型林業、小水力発電、琵琶湖自然保護活動に関っている「暮シフト研究所」代表。③川村千恵氏は結婚後長浜市に在住し、「いざない湖北定住センター」移住相談員。④米原市長平尾道雄氏。

市長もコーディネーターも里山の魅力を伝えたり、人を呼び寄せたり、ひきつけたりできるのは、移住してきた人や、遊びに来てくれる人など外部から来た人からの発信が最も重要であるとされていた。同様に思う。

来年の開催候補地が無いのは残念である。

2日目の現地視察では、米原駅に内に設置されたサイクルステーション(右写真)では、多くの利用者がある事や2~6日かけて琵琶湖を1周して自然の魅力を楽しんでいく人もいる事が紹介された。料金は1日3500円~3日9500円まで、とてもリーズナブルである。今年の営業は初雪まで。

石田光成と豊臣秀吉の出会いの場とされる観音寺を案内された。鷹狩の最立ち寄った寺で、ぬるいお茶から熱いお茶と3服のお茶を差し出した話は有名である。右の写真の右端に移っている黒い石組がお茶に使った井戸とされている。

本堂や山門は国の文化財指定になっているが薬師堂はなっておらず、傷みがひどく改修が待たれている。4軒の檀家では修復費用を集めるにも難を極めており、クラウドファンディング等資金集めに奔走していると案内された。

グリーンパーク山東では、パブリックコースのゴルフ場を2億円かけて改装し手軽にキャンプ気分の味わえる「グランエレメント」として今年6月にオープン。オープンから9月までに1年間の売り上げ計画額を達成している施設。今年の予約はすでに完売。2か月前からの予約は、その日のうちに完売する状況。利用者は関西圏が主。今年は11月末で営業は終了。来年4月中旬から再開する。

写真のタマネギ型のロータステントは3か所あり、その利用は、4人利用で一人18500円~20500円。夕食のB・B・Qや朝食、ソフトドリンク、ワイン、アルコール類、入浴利用まですべての料金が含まれている。この他にも施設内



にドーム型のテントが2つ、ロッジ風の木造建物が5つある。ロッジ風の建物を利用の場合に限り池でカヌーを楽しむことができる。

同様の施設は京都府、三重県にもあると聞いた。



長浜市では、保育士確保に向けた取り組みを視察した。保育士採用基金の設立は出来たばかりで30年4月以降運用とのことであった。内容は貴金額6千万円。保育士、教諭に対して奨学金貸与月数に2万円乗じた額を上限とする。人材の確保と長浜市への定着に結び付けるもの。

予算措置ではなく基金を設けたのは、市の意気込みを示すものであった。

長浜市は3回にわたって合併しており、市中心部にあるのは幼稚園でほぼ定員の利用がある。郡部では真庭市同様で園児は減少傾向にある。

長浜市は就学前の保育、教育に関して、連続性を重要視して教育委員会が担当していた。保育士確保に登録制度も設けており、私立保育園も利用できる制度。正規職員は70%台をキープしており、担任、副担任に臨時職員がなることもありその場合、1ヶ月の手当として担任1万円、副担任5千円を支給している。

どの園も0歳児からの受け入れを行っている。この春私立保育園1園、私率認定こども園1園、私立保育園が認定こども園に1園移行した。市の職員採用枠は20人であったが5人増やし25人としていた。

長浜市は就学前教育カリキュラムを作成しており、その中にく「運動遊び」の推進があり、「運動遊び」を通して意欲と自信を高める中で、体を動かすことが大好きになり動ける「体」をつくるとともに、人とうまくかかわれる「心」を育成する。とされており、大学に職員を派遣して、運動保育士資格の取得を目指している。園児等の状況は以下の通りである。

長浜市の保育環境

幼稚園9	保育所13	認定こども園11	教諭・保育士数
私立0	10	3	324人
市立9	3	8	521人

長浜市人口構成(人) 29.4現在  
人口 119,748

年少人口	16,381	13.68%
生産人口	70,919	59.22%
高齢人口	32,448	27.10%
0~5歳	6,059	5.06%
保・認(長)利用児童	2,858	4,138人
幼・認(短)利用児童	1,260	

就園の状況

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
9.2%	42.7%	50.2%	98.0%	98.0%	98.9%
満3歳児未満35.0%			満3歳児以上98.3%		

入園・入所園児数

	幼(定員)	認・短(定員)	認・長(定員)	保	計
私立		12 (33)	244 (313)	1,146(1,154)	1,402(1500)
市立	668(717)	580 (768)	1,117 (938)	351 (359)	2,716(2782)

行程

全国水源の里シンポジウム参加行程表

平成29年10月12日(木)~13日(金) 参加者 原 秀樹 古南源二 中尾哲雄 福井荘助  
 真庭市出発 自動車移動 220km 大津SA 70km 米原市役所となりが会場 シンポジウム 懇親会 宿泊東横イン  
 7:30 3時間 1時間 13:00 13:00 14:00~15:30 21:30  
 2日目 研修移動 伊吹山西山麓コース 13:00解散 9km15分 長浜市14:00~15:30 真庭市帰着  
 移動はすべて自家用車でした。

第11回全国水源の里シンポジウム参加費用計算書(4人割り)

月日	項目	書類番号	総額	個人割
9月26日	参加費	NO2	50000円	12635円
	// 振込手数料	NO2	540円	
10月10日	土産	NO1	2480円	3810円
10月12日	高速代久世→竜王	NO3	3040円	
	// 八日市→米原	NO3	480円	
10月12日	タクシー代会場→ホテル	NO4	1090円	
10月13日	ホテル駐車代	NO4	500円	
10月13日	高速代	NO3	3380円	
10月14日	ガソリン代 31.4L	NO3	4270円	
	合計		15240円	

出会った人

ZINSEKIZOGEN TOWN



海陽町

まちづくり推進課 協働支援・生涯学習係  
係長

後藤 輝明

副町長 歌 邦 夫

神石高原町

〒720-1522 広島県神石郡神石高原町小島2025  
TEL:0847-89-3332 FAX:0847-85-3394  
E-mail: [redacted]

〒775-0293  
広島県海陽郡海陽町夫里字上中塚126番地  
TEL (0884) 73-1234  
FAX (0884) 73-3097  
E-mail: [redacted]



米原市教育長

山本 太一

〒521-0021  
滋賀県米原市米原1-10-6  
TEL:0748-55-1100 FAX:0748-55-1100



米原市長

平尾 道雄

〒521-1850  
滋賀県米原市下多良三丁目3番地  
TEL:0748-52-1155 (代表)



米原市総務部長

要石 祐一

〒521-1850  
滋賀県米原市下多良三丁目3番地  
TEL:0748-52-1155 (代表)



〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地  
TEL:0749-65-8607 FAX:0749-65-6540  
E-mail: [redacted]

副議長  
東久雄

長浜市議会



<http://www.city.nagahama.lg.jp/>

長浜市教育委員会事務局 幼児課

参事兼課長代理 上崎 順子  
Kozaki Junko

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地  
Tel:0749-65-8607 Fax:0749-65-6540  
e-mail: [redacted]



<http://www.city.nagahama.chiba.jp/>

教育委員会事務局 幼児課

課長代理 横田 一輝  
Yokota Kazuki

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地  
TEL:0749-65-8607 FAX:0749-65-6540  
E-mail: [redacted]

長浜市議会事務局









主幹 山田 均  
YAMADA Hitoshi

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地  
tel:0749-65-6547 fax:0749-62-5900  
e-mail: [redacted]

URL:<http://www.city.nagahama.lg.jp/>

平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (10~12)


届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
12	10月12日 ~13日	河部辰夫	氏平篤正・緒形尚・ 初本勝	滋賀県米原市 (全国水源の里シンポジウ ム)

議長 副議長 局長 GL 係 國 覽  
     

様式第1号

平成 29 年 10 月 12 日

真庭市議会  
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 河部辰夫 

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

- 1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動
- 2 訪 問 先 滋賀県米原市及び長浜市
- 3 内 容 第11回全国水源の里シンポジウム琵琶湖の素  
現地視察研修 日本遺産竹生島コース
- 4 行 程 別紙のとおり 10/12~13
- 5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要


(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



様式第2号

# 報告書

平成29年10月14日

報告者 真庭市議会議員 氏名 氏平 篤正 

(参加議員:河部辰夫、初本勝、緒形尚)

下記のとおり政務活動費を利用して、調査研究・研修会に参加しましたので、その結果を報告いたします。

1日 時  
自 平成29年10月12日 午前 8時30分～  
至 平成29年10月13日 午後 5時  
2場 所  
滋賀県米原市及び長浜市

3要 件  
A 第11回全国水源の里シンポジウム琵琶湖の素 米原「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」  
B 現地視察研修 日本遺産竹生島コース

4概 要  
A たくさんの中からの話の中から記憶に残る一部分を記して報告書とします。  
① 基調講演モンベルグループ代表 辰野勇氏1995. 1・17、たまたま阪神淡路大震災の時、遺体を地元高校の体育館に運ぶ機会を得た。体育館には遺体がたくさん並べられており寝ているように見えた。外国の山で遭難した者を運び出すのに寝袋を使うのを思い出し、亡くなった人を寝袋に入れようと考えた。会社に頼んだら2000の寝袋が集まった。体育館に持って行く途中、生きている人が広場で火を焚き暖を取って、そこら辺で寝ているのを見た。死んでいる人が使うより、生きている人に使ってもらうのが先だと思

  
真庭市議会  
受  
29.10.27  
付  
12



い彼らに渡した。2000ではとても足りないので山岳メンバーに使い古した寝袋は無いかな？神戸の人に差し上げようと呼びかけたら、全国からすごい数の寝袋が集まった。

2011. 3. 11東北大震災で思いついたのは、普段使っている座布団が、浮き輪になるものを考案した。名付けてウクンジャー、だじゃれである。座布団には住所も、氏名も血液型も書いてある。笛も付いていて助けをを求める事ができる。たとえ死んでも必ず浮くので見つけてもらえる。これから来るであろう南海トラフ大地震、高知、静岡、三重などの学校に行き込みをしている。4,000円で命が守れる。災害は必ず訓練をしておく必要がある。しておかないと、有事の時に何もできない。

② パネリスト 米原市長 平尾道雄氏

昔、山ばかりで何も無い、だから皆都会へ出て行くと言っていたが、今は山ばかりあって良かった、自然の中で暮らせる…。30年間よそのお金で教育を受けて一人前になった若者が米原に来てくれる。だから全力で支えなくてはならない。よそから来た人がイベントをする時、市長は金を出すが、口は出さないことにしている。だからイベントは成功し米原は変わっている。

③ パネリスト 切り絵作家 早川鉄兵氏

地域協力隊で来て、そのまま居座って切り絵の創作活動をしている。山奥に住んでいても、すぐ東京、大阪に行けるし、ネットもあるし創作の仕事はできる。東京を目指して上京し、狭い5~6万円のアパートに住むより山奥の大きな民家に住んで、ゆったりと絵を描くほうがいいですよ。

④ パネリスト 暮らしシフト研究所代表 藤田知文氏

妻が癌になったので、食べ物で治そうと思った。それから自然栽培、無添加、無農薬にこだわるようになった。むすび1個200円で売って生計を立てているが、都会の修学旅行生の農業体験もしている。彼らにとってはすべて初体験ばかりで新鮮、その新鮮に関われることが嬉しい。旅行業のコーディネートは役所がしてくれるが、外国人からは旅行法で宿泊費が取れない、だから農作業の労務をしてもらっている。

⑤ パネリスト いざない湖北定住センター移住相談員 川村千恵氏

たまたま主人が長浜だったので今の仕事に就いた。移住者が集まれる場所が心地よかったので事務局員を受けた。空き家バンクがあり、移住希望者があり、琵琶湖があり、長浜は良い所です。トイレですね、トイレが良くないと人は行きません。

⑥ コーディネーター 株式会社電通 金井毅氏

人を集めるイベントは最初から成功しなくていい、最初は1人でも2人でもいい。続ける事が大切である。コツコツ続けたイベントには必ず物語が生ま

れ、成功へと繋がっていく。

#### B 日本遺産竹生島コース

残念ながら雨である。「母なる湖琵琶湖を船から眺めながらゆったりとクルージングし…」とある案内文は全くの嘘であり、窓の外は真っ白で何も見えなかった。島は国宝指定の宝厳寺などがあり、ゆったりとしつとりと1時間半歩いた。真庭市7人にボランティアガイド1人が付き案内してくれた。その中の1人に真庭市長 太田昇氏がいて、彼と半日を過ごした。写真にて報告します。



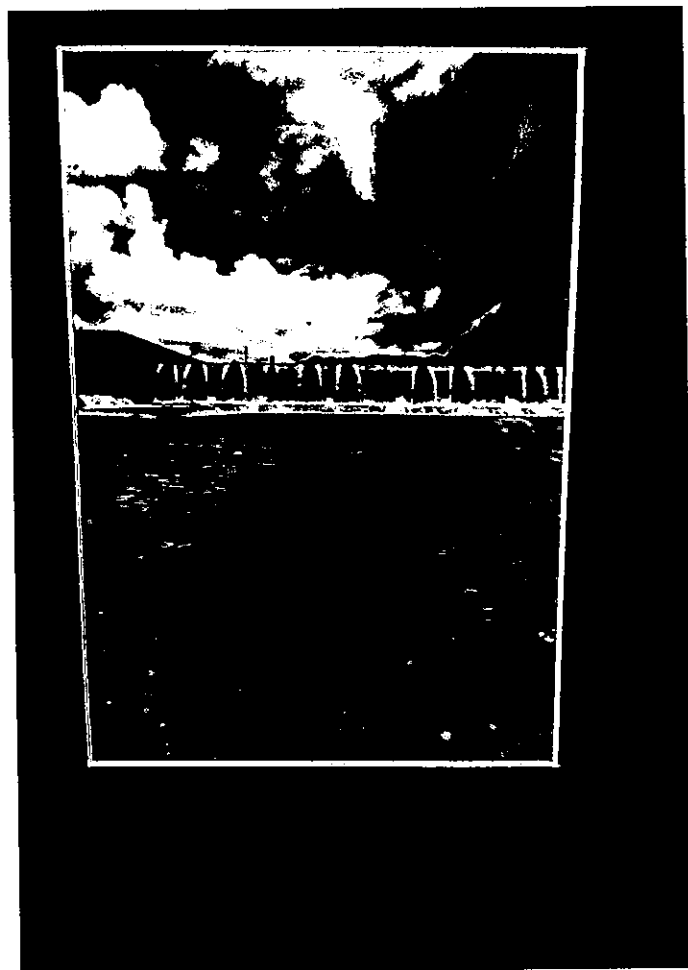
基調講演 講師の尾野勇氏

- 1) 自然環境の保全
- 2) 野外活動を通じた健康増進
- 3) 健康寿命の増進
- 4) エコツーリズムによる地域活性化
- 5) 防災、発災時の対応力
- 6) 農林水、一次産業の活性化
- 7) バリアフリー

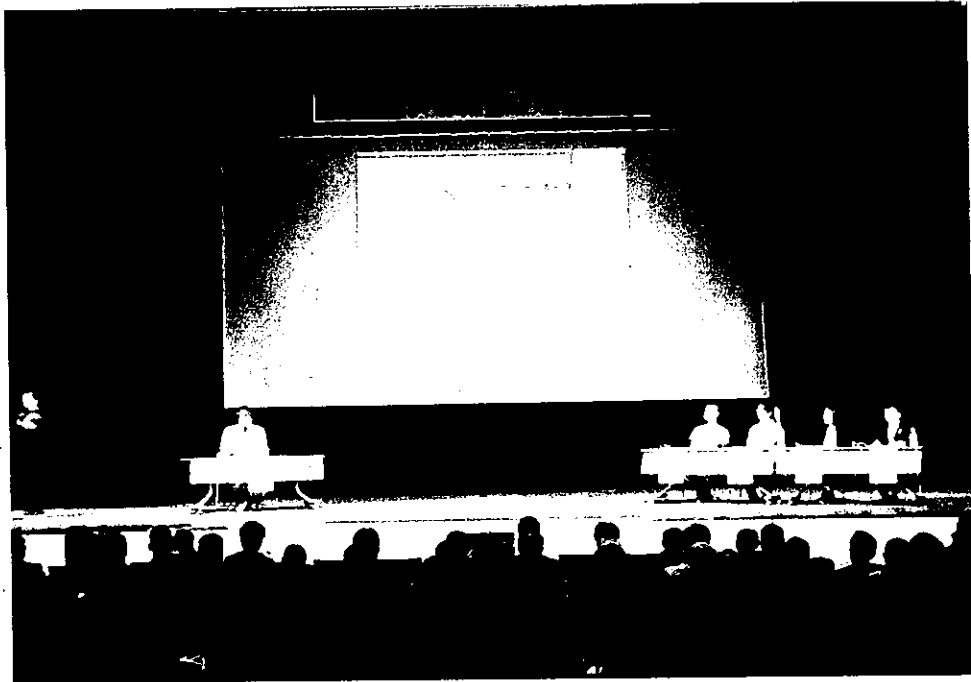
(株)モエバールのモットー



写真展のクランブリ



景にたまたま入選作.



シンポジウム会場の様子



コーディネーターの金井毅氏



ハナリズ 左から早川氏、藤田氏、川村氏、平尾氏



会場に置かれた早川鉄兵氏の切り絵



観迎のおどり 雨と雨と降った



現地視察、日本遺産竹生島  
真庭市7人にガイド人が付いた。